

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	南越前町
所属名	保健福祉課
担当者名	竹内亮子

※作成にあたっては、「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」P38～47を参考にしてください。

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①	地域ふれあいサロンの1回あたりの参加者数は年々減少し、平均10人まで落ち込んでおり、担い手不足や継続が困難な地区がある。	○サロンに参加しない高齢者にも配慮しながら、サロン継続のための支援に取り組む。 ○サロン運営について、協力員や区長、民生委員、介護予防サポーター等と協同し、近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等のマッチングをはかる。	○ サロン会場毎の開催回数増 R3年度 54会場 延700回 平均13.0回 延7,300人 R4年度 57会場 延800回 平均14.0回 延8,300人 R5年度 57会場 延900回 平均15.8回 延8,800人	●一般介護予防事業等との連携と経過確認の強化等 ●民生委員会等での情報収集や地区毎のサロン参加状況の把握 ●山海里体操の周知等による自主的な健康づくりの意識づけ ●サロン協力員や民生委員に対し、介護予防サポーターやフレイル(虚弱)予防サポーター養成講習への参加勧奨(特に男性)、講習後のサロン参加への支援 ●サロンと介護予防サポーターが実践する活動のつなぎ(マッチング) ●近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等への支援 ●R3年度 サロン開催 56会場 804回	○	【課題】 ・1会場当たりの参加人数の減少と男性参加者の取り込み ・サロンに参加していない高齢者の実態把握 ・高齢者の自主的な健康づくりへの支援(サロン以外) ・サロン協力員の運営の負担軽減 【対策】 ・一般介護予防事業等との連携と経過確認の強化等 ・民生委員会等での情報収集や地区毎のサロン参加状況等の把握 ・サロンと介護予防サポーターが実践する活動のつなぎ(マッチング)と、近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等への支援

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①	元気な高齢者が社会の中で役割を持つことが、高齢者自身の介護予防や生きがいにもつながることから、高齢者をこれからの地域を担う重要なマンパワーとして位置づけ、その地域活動を積極的に支援することが必要。	○ 脳元気お助け隊講習会（介護予防サポーター養成講座）による人材の育成・登録 ○ サポーターの活動内容の共有、活躍の場とのマッチング等による参加者兼支援者としての役割を強化	○ 脳元気お助け隊講習会（介護予防サポーター養成講座）の開催 毎年度1クール6回で実施 ○ 介護予防サポーター登録者数を増やす R3年度 93人 R4年度 103人 R5年度 118人	● 脳元気お助け隊講習会（介護予防サポーター養成講座）の開催 回数 1クール計6回/年 開催 令和3年8月～10月 修了者実人員 12人 ● 介護予防サポーター登録 12人 登録者累計93人	○	【課題】 ・サポーター活動意欲に差が生じやすい ・教室修了者と地区活動が結びつかない 【対策】 ・活動の紹介やアンケート調査等より参加者兼支援者としての活動意欲の向上をはかる ・フレイル（虚弱）チェック等役割を持つという活躍の場につなげる ・スキルアップセミナーの内容も含め講習会の内容を充実させる ・地域ふれあいサロンへの支援実績により助成される、介護予防サポーター加算についての周知

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①	「認知症カフェ」や「介護者のつどい」の実施回数が少なく、介護者同士の交流の機会が得にくい現状があった。「認知症カフェ」の充実を図り、認知症の方本人の社会参加や介護者同士の交流を通じて、介護ストレスの軽減に繋げていくなどの家族支援が必要。あわせて、認知症サポーター養成講座後の地域での活動について支援していく。	○「認知症カフェ」を設置する際に開設費、運営費を補助。運営方法などの活動支援。 ○活動意欲のある認知症サポーター等がボランティアとして運営に携わることで、サポーター養成後の地域での活躍の場を創出	○「認知症カフェ」設置数増 R3年度 3会場 実施回数12回以上 R4年度 3会場 実施回数12回以上 R5年度 4会場 実施回数20回以上	●認知症カフェ運営補助金の周知 計3事業所から認知症カフェ運営の申請あり、開設経費や運営に係る経費について支援 ●初回開催時の運営支援 初回開催時は地域包括支援センターとの併催とし、講師派遣や関係機関、対象者への周知や当日の進行について支援 ●初回開催時の運営支援 サポータースキルアップ講座にて、認知症疾患への理解と傾聴スキルを学び、終了後から希望者に対し「認知症カフェ」でのボランティア活動への繋ぎ R3年度実績 開設事業所 3事業所 実施回数 8回	○	【課題】 ・新型コロナ感染対策のため、1回あたりの参加人数制限や参加者同士の交流制限があり、新規参加者の増加に繋がりにくい。 ・地区によって参加者数に差があり、対象者に十分に周知できていない現状がある。 【対策】 ・居宅介護支援事業所への周知以外に、回覧板や医療機関への配布等にて周知を図る。 ・講師紹介や、運営内容等についての助言等、事業所支援を継続

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
②	<p>高齢化が加速し、介護サービスが必要な高齢者が増加している。過度なサービス提供にならないよう、適切なケアプランとなっているかの検証確認が必要。ケアプラン作成においては、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの質の向上を支援し、介護給付の適正化へつなげる。</p>	<p>○保険者、主任介護支援専門員、ケアプランを作成した介護支援専門員が協働してケアプラン点検を実施。 ○介護支援専門員に対し、地域ケア個別会議における多職種での事例検討により、自立支援の視点への気づきを促す。 ○実施指導にて、ケアマネジメント実施状況の検証確認を行う。 ○福祉用具の例外給付や居宅介護支援事業所における特定事業所集中減算対象事業所等へのケアプラン点検を行う。</p>	<p>○ケアプランの点検実施</p> <p>R3年度 12件 R4年度 12件 R5年度 12件</p>	<p>●ケアプランの点検 13件 ・ケアマネ協働点検 (4件) ・地域ケア個別会議 (6件) ・実施指導 (3件)</p>	○	<p>【課題】 「自立支援に資するケアマネジメントの質の向上」について、その効果をどのように評価するか 【対策】 ・ケアプランチェックの利用者の要介護度の経過を確認する。 ・(R4) ケアプラン点検実態調査より、質の高いケアプランの定義を下記の内容を参考に評価する。 ①アセスメントに基づく課題抽出 ②課題解決のための目標設定</p>
①	<p>助け合い活動に意欲のある住民が集まり、地域の現状を知り目指す必要な活動などを話し合い、活動の場を設けて子どもから高齢者まで誰でも参加できる集いの場を今庄地区で行っている。また令和3度から町内初の第2層協議体(移行予定)として活動している。今後はその他の地域においても地域での活動を発展させ、第2層協議体を広めていく必要がある。</p>	<p>○今庄地区の活動や打合せの場に生活コーディネーターや行政職員も参加し構成員が主体的に活動できるよう支援する。 ○その他の地域にも第2層協議体を設置するために、興味を示している方々に活動のアドバイスや現在ある第2層協議体の活動の見学を実施。</p>	<p>○第2層協議体の設置</p> <p>R3年度 1件 R4年度 1件 R5年度 2件</p>	<p>●第2層協議体の設置 今庄地区の活動を第2層協議体として移行予定。 ●活動支援 月1回の活動及び打ち合わせに参加。 ●他団体等との交流活動 桜町地区で活動していることも食堂とお互いの活動の場を見学し合い、交流を図る。</p>	○	<p>【課題】 ・その他の地域への拡大をどう進めていくか 【対策】 ・サロン協力員や社協に登録しているボランティアの方々に今庄の活動に参加してもらい、第2層協議体のことについて知ってもらい、住んでいる地域ではどういった活動ができるか考える機会を作る。</p>